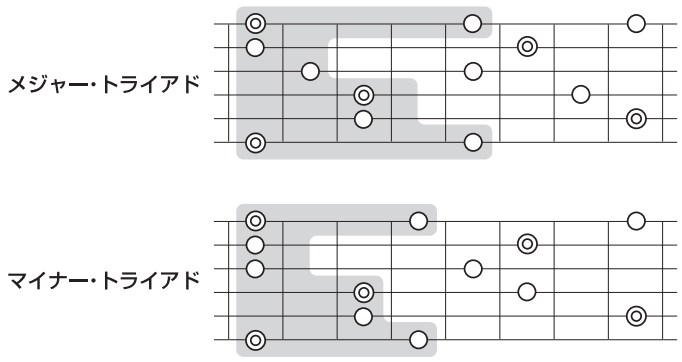
注意点1 理論

6本弦スウィープの基本ポジションを覚えよう

超絶ギターの難関、6本弦トライアド・スウィープ・フレーズを弾くためには、まずポジション図を覚えることが大切だ(図1)。このフレーズでは、6弦ルートのバレー・コードと同じポジションが登場するが、6＆1弦が2音で、それ以外の弦が1音ずつとなっている。もちろんメジャーとマイナー、それぞれのポジションの違いをしっかりと理解することも大切だ。このポジションでは必ずセーハが登場するが、弾く際には5弦ルートのスウィープ・フレーズと同様に十分に注意してもらいたい。このポジションを覚えることで、9thを入れたさらに複雑な応用フレーズを作ることができるので、超絶ギタリストを目指している読者は確実にマスターしよう。

図1　6本弦トライアドのコード・トーン図　◎ルート音

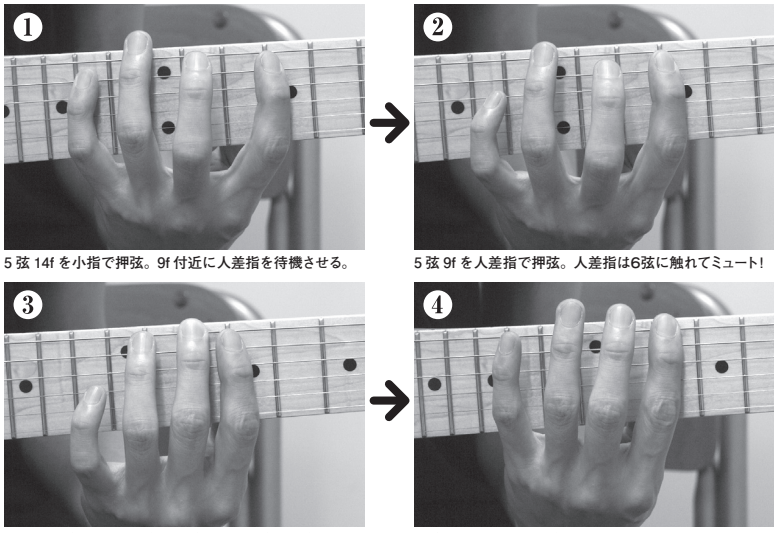


メジャー、マイナーともに、6弦ルートのバレー・コードと同じポジションが登場する。

注意点2 左手

コード・チェンジ時の運指に注意すること！

このフレーズは、6本弦トライアド・スウィープから入り、5弦ルートのスウィープで戻る構成となっている。1＆3小節目のマイナー・コードでは、3本弦を人差指のセーハで押弦する部分が登場するが、クリアに音を出すために前々項で紹介した人差指のミュートを行なおう。実際に弾く際に特に注意してもらいのは、コード・チェンジの瞬間だ。写真は1小節目から2小節目に変わるところだが、1小節目の5弦ルートの後半部分で5弦も押弦するストレッチが登場し（**写真①&②**）、続いて 1 小節目最後の中指による6 弦 10フレットの押弦後、すぐに同じ 6 弦 10フレットを人差指で押さえる（**写真③&④**）。通常同じフレットをすぐに別の指で押弦するケースは少ないので、この一連の動きは何度も練習してほしい。



5弦14fを小指で押弦。9f付近に人差指を待機させる。

5弦9fを人差指で押弦。人差指は6弦に触れてミュート!

6弦10fを中指で押弦。次の人差指への交換を意識しよう!

人差指にシフト。この時点で小指は6弦14f上に!

～コラム39～

地獄の戯れ言

ここではスウィープの名演が聴けるアルバムを紹介しよう。まずは、スウィープ・エコノミーの元祖、フランク・ギャンバレの『THUNDER FROM DOWN UNDER』。彼はジャンルの枠を超えて、多くのギタリストに影響を与えている。次はトニー・マカパインの『マキシマム・セキュリティー』。彼は黒人であるが、スウィープを見事に使いこなすネオクラシカル系ギタリストで、名盤中の名盤と言える本作には6本弦スウィープが満載だ。最後はドリーム・シアターの1stアルバム『DREAM THEATER』。ジョン・ペトルーシの原点とも言える超絶スウィープ・プレイを聴くことができる。

プロに学べ！　スウィープ名盤紹介

フランク・ギャンバレ
『THUNDER FROM DOWN UNDER』

トニー・マカパイン
『マキシマム・セキュリティー』

ドリーム・シアター
『ホエン・ドリーム・アンド・デイ・ユナイト』